

キビタキ

Ficedula narcissina

ヒタキ科・夏鳥

名前の由来

黄色いヒタキの意で、江戸時代は「黄火焼」と書いた。ヒタキはヒタキの仲間のジョウビタキの地鳴きが「ヒッヒッ、カッカッ」と火打石をたたく音に似ているので「火焼き(ヒタキ)」になったといわれる。多くのヒタキ類は「カッカッ」という声を出す。漢字名：黄鶺鴒



撮影：飯嶋良朗

キビタキ (オス)

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）13.5cm。スズメより少し小さい。

オスは色彩鮮やかで、頭から背、尾が黒く、のどはオレンジがかかった黄色で、そこから胸にかけて黄色く、腹は白い。また、目の上の眉斑（眉のような模様）や腰も黄色い。メスは全体がオリーブがかかった褐色で、のどと腹の中央は白っぽい。

声：繁殖期には「ピッコロロ、ピッコロホイホイ」「ホイヒーロー」「ピピロピピロピピロ」などと変化に富んだ、遠くまで聞こえる美しい声でさえずる。「ピッピク、オーシー」とセミのツクツクハウシのような声も出すという。地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）では「ピッ、ピッ、ピッ、クルル」と鳴く。

飛び方：飛んでいる虫を捕る際、枝から飛び上がってくわえ、元の枝（または近くの枝）に戻る、というフライングキャッチを行う。

類似種と区別点：マミジロキビタキ、ムギマキ。マミジロキビタキの眉斑（眉のような模様）は白い。ムギマキののどから胸は、オレンジっぽい褐色。



キビタキのオス。のどから胸の黄色と真っ黒な上半分とのコントラストが鮮やか



キビタキのメス



キビタキのオスの背中。腰も鮮やかに黄色い

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁殖						
フィリピンなど (越冬期)												

生息環境・分布

丘陵や山地の森林。北海道では平地の林にも生息。木が大きくて樹冠の下に空間がある薄暗い林を好む。

分布：サハリンなどアジア東北部で繁殖し、冬はフィリピン、インドシナ半島、ボルネオ島などに渡る。

日本では夏鳥として渡来、繁殖し、ほぼ全国に分布する。北海道には夏鳥として5月中旬に渡来し、繁殖。平地から

低山の樹林に生息する。

十勝には、夏鳥として5月下旬に渡来し、繁殖。平地から低山の樹林に生息する。

食性・他生物との関わり

飛んでいる昆虫や木の葉の裏面にいる虫などを食う。

虫を捕る際、枝から飛び上がってくわえ、元の枝（または近くの枝）に戻る、というフライングキャッチを行う。盛んにとまる枝を変えて、採食場所を移動するという。

秋の渡り時期には液果も食べるという。

捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～8月、一夫一妻で繁殖する。

繁殖地に渡ってくると、オスは盛んにさえずってなわばりを作り、つがいを作る。（→興味深い話の項参照）

巣は樹洞や木の裂け目、茂ったつるの間などに、枯れ葉や枯れ草、コケ類や細根などを利用して、深い碗形に作る。巣作りはメスのみが行い、オスはその間メスの後を追う。

4～5個産卵し、メスだけが12～13日卵を抱く。メスの抱

卵中、オスはなわばりを守っているようだという。

ヒナがかえるとオスメス共同でヒナを育てる。育雛の初期には、オスがヒナを抱いているメスに餌を与え、メスはそれをヒナに与えるのだという。

約12日でヒナは巣立つ。

興味深い話

■春から初夏の樹林で、遠くまで聞こえる美しい声で鳴く。ただし木の梢に現れたりせず、林の中層の枯れ枝などとまってさえずることが多い。

■なわばりの広さは直径100～150mくらいだという。

■オス同士でなわばり争いが行われ、鋭い羽音やパチパチとくちばしを鳴らす音を出すという。枝の上で10～30cm間隔でにらみ合ったり、6～7mの枝の上から垂直に地上まで追い込んで、地上でつきあうという、激しい争いもあるという。また争いの際「ブーン」というハチの羽音のような声を出したりもするという。

■なわばり争いはオスだけではなく、巣の周辺ではメスも

参加するという。

■巣作りの際、キツツキの古い巣穴や巣箱を利用することもある。

■メスだけが卵を抱くが、1回の抱卵時間は1～2時間ほどで、平均16～17分ほど巣を離れる間に採食するのだという。

■ヒナを育てる際、初期にはオスが餌を運びメスに渡すが、全体を通してはオスもメスもほぼ同じ回数餌を運ぶのだという。

配慮事項

樹洞や裂け目がある大きな木がある樹林が大事。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997

江崎良彦 (1970) キビタキ. 長野県上水内郡誌自然篇、動物. 上水内郡誌、pp. 759-764. 上水内郡誌編集会.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ